

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ることができる。
乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。
乗法について成り立つ簡単な性質について理解することができる。
乗法九九(5、2、3、4の段)について知り、1位数と1位数の乗法の計算が確実にできる。
- (思考力、判断力、表現力等) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を利用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすることができる。
- (学びに向かう力、人間性等) 乗法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする。

ICT活用のポイント

操作活動による概念形成と他者の考えの比較・共有においてICT活用が有効である授業

【つかむ】前時を振り返るとともに、本時の学習課題をつかむ。

【追究する】操作活動を取り入れながら、乗法の式の意味を話し合う。

【まとめる】1つ分の数といくつ分の数についての理解を深める。

事例の概要

2×3と3×2の違いを考える学習
ICT端末を活用して、乗法の概念形成のための操作活動を行った後、グループで他者の考えを比較・共有することによる話し合う活動を行う。

【事例におけるICT活用の場面①】

○ICT端末上のおはじきを操作し、2×3と3×2を意味する形に並べる活動により乗法の概念の理解を深める。

【事例におけるICT活用の場面②】

○ICT端末により児童全員の考え方を共有できるようにするとともに、グループで他者の考えを比較しながら話し合い、グループとしてよりよい表現を考える。

【算数・小2・かけ算】②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



【事例におけるICT活用の場面①】

- ICT端末上のおはじきを移動して並べ、まとまりを困んだり色分けしたりすることにより、 2×3 （2つのまとまりが3こ）と 3×2 （3つのまとまりが2こ）の違いを考える活動を行った。操作したテキストは、指定された場所へ提出する。
- 操作した痕跡をそのまま提出することができ、効率よく学習を進めることができる。
- ICT端末上で活動が完結できるため、机上に具体物としてのおはじきを準備することなく、必要最小限の教具で学習ができる環境が整う。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 場面①で提出されたテキストをICT端末上で児童全員で共有した。児童は各自、たくさんの他者の考えを閲覧することができた。その後、共有された考えの中からより分かりやすいものをいくつか比較し、グループでよりよい表現を考える活動を行った。
- ICT端末を、思考を働かせるための道具として活用している。
- 全体共有された他者の考えからグループでの話合いの参考にしたい考えを容易に画面に取り出すことができる。

【活用したソフトや機能】

学習支援ソフトのテキスト及び提出機能、共有・比較機能